

特別講演 2

「高尿酸血症治療薬における新たな選択肢

～Novel selective Urate Reabsorption Inhibitor, Dotinurad の特徴～」

東京慈恵会医科大学 名誉教授

細谷 龍男 先生

高尿酸血症・痛風の治療薬として尿酸生成抑制薬のアロプリノールと尿酸排泄促進薬であるベンズブロマロンが使用されていたが、いずれも 1960 年代に臨床応用された薬であり、その後 40 年以上この分野では新規薬が登場していなかった。

2010 年以降、尿酸生成抑制薬（XOR 阻害薬）としてフェブキソスタットとトピロキソスタットが、さらに尿酸排泄促進薬（選択的 URAT1 阻害薬）ドチヌラドがいずれも日本で開発され、新たな治療選択肢が追加されたわけである。

本講演ではこれら 3 剤の開発の経緯と特徴について解説する。